

水源の里だより

みらいつくり隊
なう!

《水源の里振興室から》



みらいつくり隊員（第1期）
松崎 淳さん（東京都品川区から大久保に移住）

「地元を離れた人に戻ってきてほしい」という地域の要望を叶えるにはどうすればいいのか、いつも考えています。

みらいつくり隊員は、2年間の任命期間中に「基本活動」として地域支援活動をしながら、自身の起業や就職を目指す「みらい活動」をおこなっています。

今回取材した松崎さんは、基本活動として、姉川せせらぎ懇話会の事務局となり懇話会の活動をお手伝いされています。

そんな松崎さんに懇話会の活動について教えていただきました。

「いままで隔月1回のペースでかきもち作りなどのイベントを実施していましたが、現在では毎月1回のペースとなり、以前に比べて大きく参加者が増えました。

また、地元の方にこそ、その良さや文化を知っていただきたいの思いから、地元の方を対象にしたイベントも実施しました。こちらに参加された方からは好評価をいただいています。

また、地元の方のお話を聞く限りだと、就職や結婚などで地元を離れていった方を呼び戻したい、そんな希望が強いのではないかと受け止めています。

それを考慮した上で、地元の方の要望を満たすという目的に対して、今の自分は本当に役に立っているのか、そしてどんな取り組みを實行したら満たせるのか、手探りしながら活動しています。今後は、地元のみなさんが『活性化疲れ』のような状

態になってしまわないように、より工夫していきたいと思います」
隊員となった昨年4月、奥さんと当時1歳のお子さんとともに移住された松崎さん。

当初移住に対して身内の方から反対もあったそうですが、現在ではすっかり大久保での生活に慣れられたようです。そんな松崎さんからみた「米原の魅力」は…

・子育て環境が東京などの都会に比べて恵まれていると感じる。東京では子どもが待機児童だったが、米原では入所できた。

・保育園の費用も安いので助かる。

・自然に囲まれた田舎でありながら近隣には大型の商業施設があるので普段の生活には困らない。

・空き家となっている家も、多少手を加えれば、都市部以上に快適な生活ができる。

という内容でした。子育て環境や生活環境について、東京と比べてもあまり不便はないそうです。

環境の良さに加え、利便性も高いことが米原市の魅力。こうした魅力を再認識し、広く発信することが、地の利を生かしたまちづくりにつながりそうです。



松崎さん宅にある囲炉裏は掘りこたつを改修したもの。こういったことも敷地が手狭になりがちな都市部ではできないこと。



写真は昨年の様子

今年「伊吹の天窓2012」が開催されます 会場を奥伊吹スキー場へ移してスケールアップ!

昨年、真夏の夕暮れの甲津原で奏でられた真依子さんのコンサート、みらいつくり隊員・早川さんの切り絵のライトアップなど、幻想的な雰囲気が大盛況だった里おこしイベント「伊吹の天窓」。今年、会場を奥伊吹スキー場へ移し、スケールアップして開催。ご家族やご友人と、ぜひご参加ください。

日時▶7月14日(土) 14時~21時 雨天決行
会場▶奥伊吹スキー場(米原市甲津原)
料金▶大人前売2,000円 当日2,500円
中学生以下(前売・当日共通)1,000円
未就学児 無料
※前売券の販売は7月7日(土)まで。
下記ウェブサイトのほか、ジョイいぶき、ルッチプラザ、米原公民館、近江公民館で購入できます。
内容▶・コンサート「薄荷葉っぱ」「真依子」
・切り絵ライトアップ
・草かりダンス・雪ふみ行進
・あおぞら食堂 ・手作り市
※寒さ対策、虫よけ対策は各自にて。
※ペットの入場はお断り。

申・問 伊吹の天窓実行委員会 ☎56-0617
✉ info@ibukinotenmado.com
URL <http://www.ibukinotenmado.com/>



姉川せせらぎ懇話会
会長 川瀬四郎さん

松崎さんは地域の行事などにもよく顔を出してくれます。セツブンソウ祭りでは、奥さんも一緒になって夫婦でがんばってくれました。まだ1年ちょっとしか経っていませんが、村に溶け込んでいるように思います。今後の活動についても期待しています。



3月に開催された大久保区のセツブンソウまつりのようす。今年で3回目を迎えた今回のまつりには、2日間で約800人の来場者がありました。

大手航空会社でインターネット業務を担当していた経験を持つ松崎さんですが、自らの定住を目指すための「みらい活動」の状況についても伺いました。
「インターネット関係の仕事と並行して、大手通信販売サイトへの出店を計画中です。地元米原の魅力的な商品を、全国で紹介・販売するお店です。市内でものづくりされている方にご賛同いただけるよう、着々と準備を進めています。
インターネットの仕事は住む場所を限定されにくいので、私がこういつたライフスタイルで成功することが、地元の方々が求める『地元を離れた方呼び戻す』ことの後押しに



「娘が関西弁を話すようになってきました」と話す松崎さん

なるはずです」と松崎さん。
そんな中、たまたま帰省されていた地元出身の方と立ち話をした際に、こんな一言をいただいたそう。
「大久保含め地元が」最近は何んだか元気がいいので、いずれは戻りたい」
懇話会をはじめ、地元のみなさんの地道な取り組みが、現状を変えていく。そんな地域のがんばりを日々支えている松崎さんの活動を今後も応援していきたいと思えます。